

### 《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

#### ◆26年度の概算要求122.4兆円 上向く金利、予算圧迫

・財務省は2026年度予算の概算要求総額が122兆4454億円だったと発表した。前年度の予算額から7兆2476億円(6.3%)増え、要求額としては3年連続で過去最大となった。足元の長期金利の上昇を受け、国債の元利払いにあてる費用が前年度を4兆1686億円(14.8%)上回る32兆3865億円に膨らみ、政策経費に回す余地が狭まっている。

#### ◆「社食補助」は42年ぶり上げ、公的価格の7割見直し検討 賃上げ促す

・政府は物価上昇を踏まえ、補助金などの見直しを始める。2026年度に向けて各省庁は、長く据え置いてきた公的制度の価格の引き上げを求めた。全体の7割が対象になる。40年以上変えていなかった社員食堂の税制優遇枠の拡大も検討する。家計支援などの政策効果を維持する狙いがある。企業の適正な価格転嫁や賃上げも促す。

#### ◆人工光合成、30年に実用化目標 環境省が設備導入を支援

・環境省は人工光合成の普及に向けた工程表を公表。技術の確立や製造コストの低下を進め、2030年に一部での実用化を目指す。設備導入の補助事業も始める。植物のように太陽光と水、二酸化炭素を用いて、水素やメタン、合成ガスを作り出す技術。生成物は燃料として使ったり、肥料や樹脂、医薬品の原料として利用したりすることを想定。

### 《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

#### ◆空き家の9割、市部に集中 老朽化で売却にためらい—政府調べ

・国土交通省が公表した2024年度の「空き家所有者実態調査」結果によると、空き家の約半数が「大都市圏以外の市部」にあり、「大都市圏の市部」にある空き家を合わせると、約9割が市部にあることがわかった。最寄りの駅からの距離を見ると、駅から1km以内では「大都市圏の市部」の割合が高くなっている。

#### ◆カセットボンベ、使用期限に注意喚起 経年劣化や誤使用で事故

・災害でライフラインが寸断した際などに役立つカセットコンロや携帯発電機だが、経年劣化や誤った使用方法で重大な事故が発生する恐れもある。製品評価技術基盤機構(NITE)が注意喚起し、製品の状態を点検するよう求めている。使用期限が近いものから使い、新しく補充する「ローリングストック」を推奨する。

#### ◆7月展示場来場者、近畿エリアの大幅減でマイナス幅拡大

・住宅展示場協議会と住宅生産振興財団が公表した7月の住宅展示場来場者組数は、17万9944組(対前年同月比7.1%減)だった。累計(4～7月)の対前年同期比は6.3%減となり、前月よりマイナス幅が拡大。関東、近畿の2エリアで新規展示場がオープン、関東で対前年同月比3.7%増となったものの近畿エリアが31.4%減と大幅な減少。

### 《 注目商品 》

#### ■パロマ、「WITHNA(ウィズナ)」ビルトインコンロの清掃性・利便性を向上

・丸ボタンの点火ボタンを搭載したスタイリッシュなビルトインコンロの同シリーズをモデルチェンジ。新たに「ひろびろすっきりトップ」を全機種で採用。グリル排気口をアイランド構造とし、すっきりとさせることで清掃性や調理中の鍋の仮置きなどの利便性が向上。



#### ■大建工業×エプソン、インクジェット印刷の畳表を共同開発

・大建工業はセイコーエプソンと連携して、建材×インクジェット技術による製品開発を進めており、「デザイン畳表」はその第2弾。和紙を原料とした畳表と高精細インクジェット印刷技術を組み合わせ、和紙おもてに高精細・高発色の図柄プリントをほどこす。



#### ■中央住宅、千葉の分譲地で「1.5階建て」提案

・ポラスグループの中央住宅はこのほど、分譲地「南流山12プロジェクト ひととき×すみか」全12棟(千葉県流山市)、「ひととき 流山市松ヶ丘・南柏」全67棟(柏市)を開発。いずれの分譲地も、2階建て1階で生活が完結する間取りの「1.5階建て」住宅を取り入れた。

